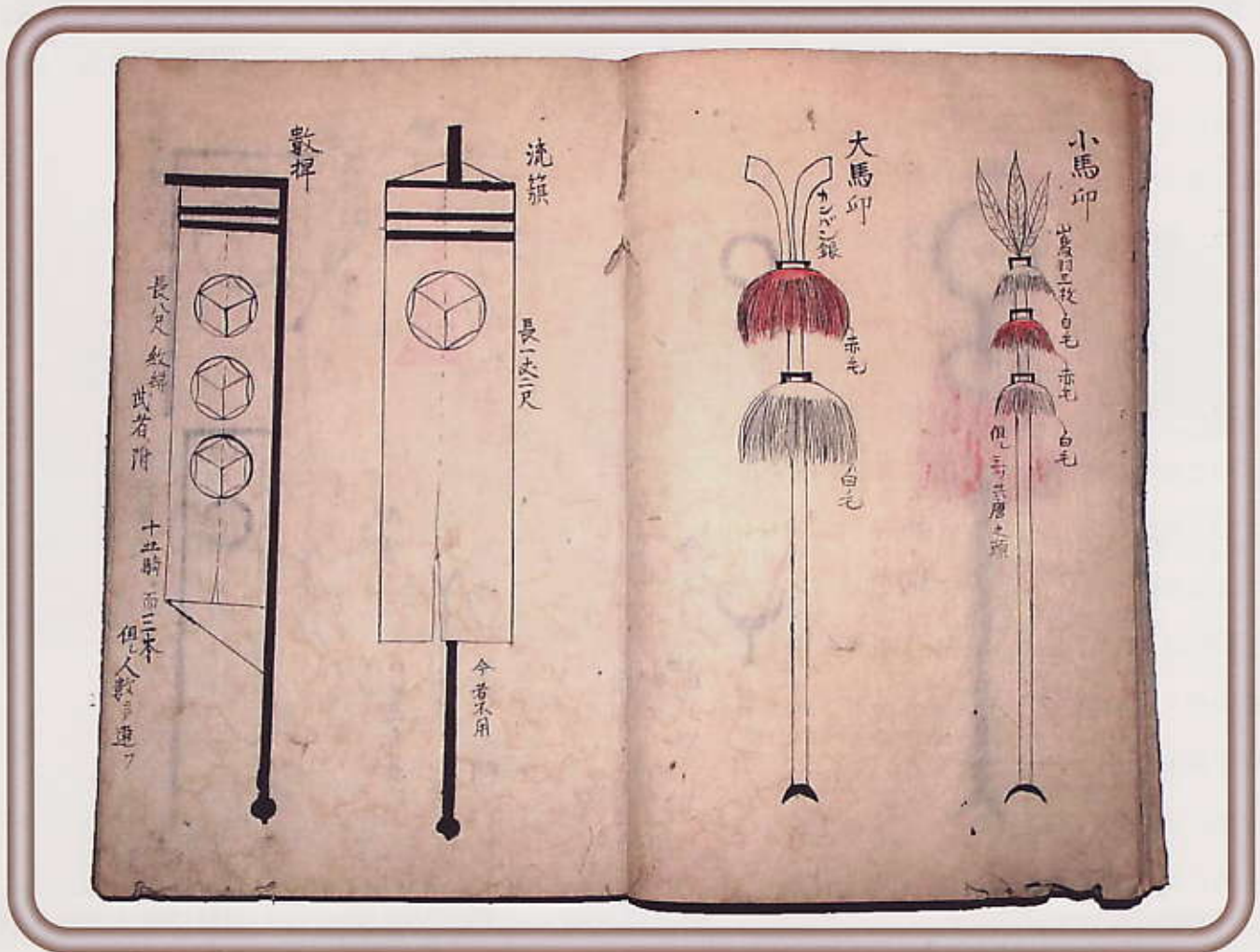


寒川文書館だより

Vol. 5



「旗本杉浦家八千石陣立御料地」(寒川文書館所蔵)

■第5号目次

資料紹介	2
佐藤昭夫氏仏教美術書コレクション	3
寒川の先人たち	3
第5回企画展「かながわの国体1955・1998」	4
収蔵庫の資料から(2)	5
文書館 最近のできごと	6

第5号
2009.3.31
寒川文書館

資料紹介

表紙の「旗本杉浦家八千石陣立御料地」は、江戸時代に高座郡宮山村をはじめ8,000石におよぶ知行地を支配していた大身旗本杉浦氏について記したものです。杉浦氏の家譜、軍役、屋敷地の変遷、歴代の墓所や戒名、丹波国の知行所の書き上げなどのほか、3代当主正職（まさもと。1671—1711）の顕彰碑の碑文など正職に関する記事も書き留められています。

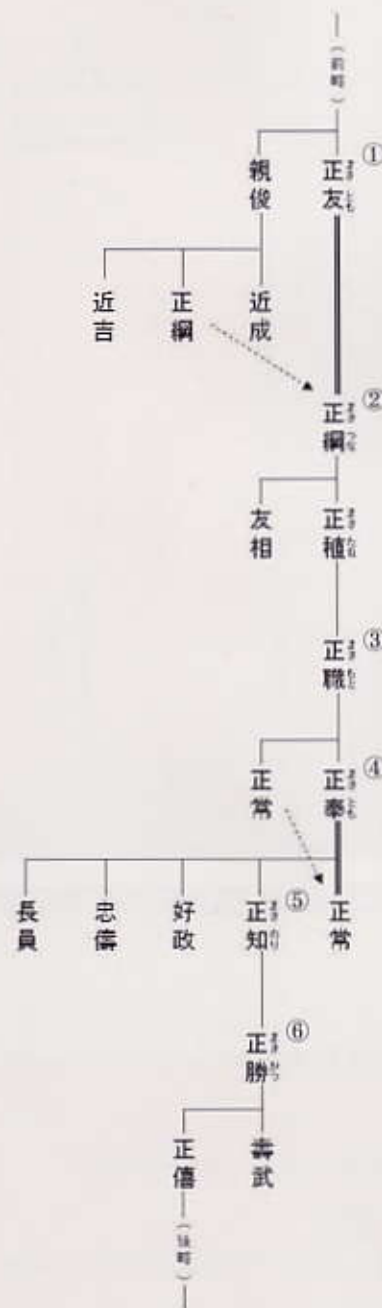
杉浦氏は三河以来の徳川家譜代の家臣でした。杉浦正友（まさとも）は元和元年(1615)大坂夏の陣の功績により、相模と武蔵に600石の知行地を拝領しており、その後加増を重ね、寛永19年(1642)までに6,000石を知行することになります。宮山村はこの間に杉浦氏の知行地になったものと考えられます。2代正綱（まさつな）が家督を相続すると、丹波国に2,000石の加増を受け、知行地は合計8,000石となりました。元禄11年(1698)には旗本知行地の見直し策として「地方直し」が行われ、8,000石の知行地は、相模国高座郡・鎌倉郡、丹波国桑田郡・何鹿郡の計2国4郡に整理されますが、宮山村は幕末まで杉浦氏の知行地として続きました。

元禄12年に祖父の家督を継いだ3代目の正職は、弓・琴・詩に長けた人物でした。幼少期に明僧の心越禪師から直接琴譜の秘法を伝授されたことは先行研究でも指摘されています（大口勇次郎「琴を愛でた旗本杉浦正職-丹波の碑文を手がかりに-」『寒川町史研究』第7号、1994年）。さらにこの史料によると、「泰山様（正職）文学御好み 水戸黄門様（光圀）並びに唐僧心越禪師シタク御出會し、詩歌其外御風雅にて世に知る 処、依て心越禪師ヨリ晴化之琴御伝受（授）遊ばされ候」（送り仮名は筆者）とあり、正職は徳川光圀とともに詩歌を詠むなど、風雅で知られる人物だったこと

がうかがえます。

旗本に関する史料は、明治維新を迎えるとともに散逸してしまうことが多く、現存する例はあまり多くありません。この史料は一冊限りで断片的ではありますが、大身旗本の家譜や事跡などがわかる史料が残存すること自体、大変貴重だと言えるでしょう。

（佐藤 絃司）



旗本杉浦氏の家譜（『寛政重修諸家譜』第九巻より作成）

佐藤昭夫氏仏教美術書コレクション

仏教は長く日本人の生活の隅々までに浸透し、大きな影響を与え続けてきた信仰のひとつです。なかでも仏像はそうした信仰の象徴でもあり、多くの人々に親しまれてきました。『寒川町史』『美術工芸編』では、寒川町域に残る仏像、仏画、仏具、石造物などの網羅的な調査が行われましたが、町史編集委員としてその陣頭指揮をとったのが、東京国立博物館におられた故佐藤昭夫氏でした。没後にご遺族から蔵書、フィルム等の貴重なコレクションが寒川町に寄贈され、寒川文書館で活用させていただいています。開架書架に置かれた本の背ラベル左上に「S」とあるのが佐藤氏の旧蔵書です。



佐藤昭夫氏(1928～2002)

東北大学文学部東洋芸術史学科卒業。東京国立博物館学芸部長、神田外語大学教授、大正大学教授を歴任。『寒川町史』をはじめ、自治体史も広く手がけた。

シリーズ 寒川の先人たち

第4回：寒川出身の海軍少将 — 吉沢作造 —

明治12年(1879)、田端に生まれた元海軍軍人です。吉沢は同35年(1902)に海軍機関学校を卒業すると、日露戦争・第一次世界大戦などに従軍し、戦艦の機関長などを歴任した後、大正15年(1926)に海軍少将に任官しました。そして昭和3年(1928)年、海軍燃料廠平塚鋳業部長を最後に退官し、予備役となります。

その後は茅ヶ崎に居住し、同8年(1933)には寒川村と神田村(現平塚市)の間に橋を架ける運動をした「相模川中部架橋期成同盟会」の会長に就任します。同盟会は両村村長を副会長とし、村会議員や各区長をも含む大組織でしたが、その中で吉沢が会長となったのは、平塚の海軍火薬工廠への通路が必要であるという軍事的緊急性が橋建設の有力な拠り所になることで、元海軍少将の吉沢が適役であったためでした。

そして同盟会が県に陳情を行った結果、同13年7月に木造の神川橋が建設されることとなります。

(林 宏美)



吉沢作造(1879～1956)

<第5回企画展>

「かながわの国体 1955・1998」

国体(国民体育大会)は、昭和21年(1946)に京阪神地方で開催されて以来、国内最大のスポーツの祭典として国民に親しまれてきました。神奈川県では昭和30年(1955)と平成10年(1998)に開かれました。平成10年の「かながわ・ゆめ国体」から満10年になるのを記念し、国体のあゆみや、神奈川県開催のそれぞれの大会の概要を展示しました。とりわけ、平成10年の大会では、寒川町で実施された銃剣道競技の記録や写真を紹介するとともに、その準備や運営に活躍した町民ボランティアの姿にスポットをあてました。準備にあたっては、ユニフォームなど多くの皆さんから思い出の品を借りることができたほか、パネル作成や展示替え作業に12名のボランティアの皆様にご協力いただきました。

神 奈川国体

昭和30年の国体の参加選手は夏季・秋季大会あわせて17,134名、役員等を加えると2万余名にのぼり、当時としては国内最大のスポーツイベントとなりました。



か ながわ・ゆめ国体

平成10年の大会は、全市町村での競技開催、県民参加型のイベントの開催、ボランティアによる運営、大会のスリム化など、特色ある運営がなされました。

寒 川町のゆめ国体

炬火は県内11コースで、4,776名のランナーのリレーによって県内各地を駆け巡りました。寒川町では新装なった寒川総合体育館で銃剣道競技が実施されました。



地 域ボランティアの活躍

国体の運営は、数多くのボランティアの人たちに支えられました。会場周辺の清掃や誘導、選手の入退場のアナウンスなどの大会運営にかかわるものや、訪れる人々を快く迎えるための花の苗の植え替え作業などに貢献しました。

【展示期間】平成20年9月7日(日)~21年2月27日(金)

※すでに終了しています。

収蔵庫の資料から (2)

文書館の収蔵庫には、皆様から寄贈や寄託していただいた貴重な記録資料や写真をはじめ、寒川の歴史を物語るさまざまな資料を保存しています。今回もその一端をご紹介します。いずれも閲覧できますので、ご希望の方は気軽にカウンターにお申し出ください。

山本延寿氏寄贈絵はがき



山本延寿氏寄贈絵はがき

2点11枚。「農業教育の現況」というシリーズは、「農業科」の教育に重点を置き、実習園の運営や郷土農業調査の編纂を行った寒川尋常高等小学校長の清水善茂が、その事業PRのために作成したものと考えられます。

石黒行雄家文書



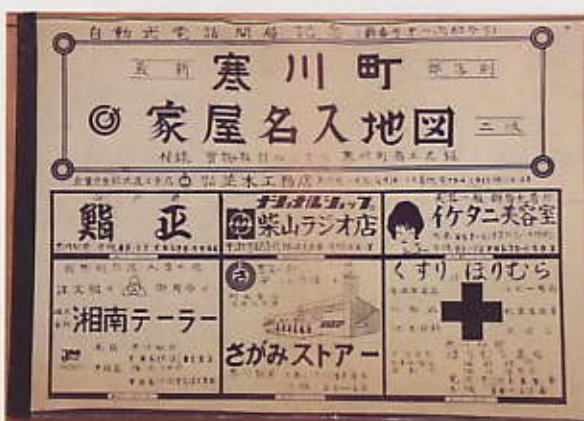
11点。昭和30年前後の寒川町民体育大会や寒中祭のプログラムが中心ですが、第10回神奈川国体の国体旗リレー応援小旗や、第14回東京国体の記念電車乗車券などの珍しい資料も含まれています。

大曲自治会文書 (寄託)



代々の自治会長に引き継がれてきた史料70点が写真のような木箱に納められていました。地租改正にともなう諸帳簿、昭和恐慌期の失業対策に関するもの、戦時中の通達文書、戦後の会計帳簿などがあります。

藤井彰家文書



昭和40年の寒川町家屋名入地図1点。いわゆる明細地図と似ていますが、単なる地図にとどまらない、当時の寒川町に関するさまざまな情報が盛り込まれている貴重な記録資料です。

文書館 最近のできごと

■学習院大学大学院アーカイブズ実習 8月19日(火)~23日(土)・12月16日(火)~20日(土)



平成20年4月、学習院大学大学院人文科学研究科にわが国初のアーカイブズ学専攻が誕生しました。このカリキュラムには公文書館等の現場での実習が組み込まれているため、寒川文書館でもこれに協力し、博士後期課程の学生1名を、8月に1週間、12月に1週間受け入れました。通常の資料整理だけでなく、ボランティアとの協働、講座の運営、視察対応など、文書館のさまざまな業務を体験してもらうことができました。

■新採用教員研修 8月21日(木)



この春、寒川町立の小中学校に採用された教員7名が、研修の一環として文書館を訪問しました。昨年までは梶原景時の館跡や大(応)神塚などの史跡を案内していましたが、今回は文書館の役割についての説明に絞りました。公文書館とは何か、どのような資料があるか、これまで小中学生のレファレンスにはどのようなものがあったかなどを説明し、授業で文書館を活用してもらえようアピールすることができました。

■団塊の世代応援講座 10月25日(土)



生涯学習課主催「団塊の世代応援講座」の参加者が文書館に立ち寄りました。会社を退職し「地域デビュー」する人たちを対象に、町の公共施設などを見学しながら仲間づくりのきっかけにしようという企画で、他に消防庁舎、文化財学習センターなども訪れています。ふだん目にする事のない明治時代の公文書や江戸時代の古文書を見てもらい、文書館の役割や資料の大切さについて説明しました。

■懐かし映像上映会 11月3日(月)



総合図書館との共催で「懐かし映像上映会」を開きました。昨年の開館1周年記念事業の上映会が好評だったことから実施したもので、今回は文書館の企画展「かながわの国体1955・1998」の関連事業とも位置づけて、昭和30年と平成10年の神奈川県で開催された国民体育大会に関する映像資料5本を上映しました。参加した皆さんはとりわけ昭和30年のモノクロの映像に引き込まれるように見入っていました。

■第6回町史講座「相模路を歩いた高野聖たち」 11月8日(土)



町史講座は町史刊行物の執筆者がわかりやすく内容を解説するものです。今回は町史編集委員長・圭室文雄氏に、高野山高室院文書調査の成果についてお話しいただきました。とりわけ高野聖が相模国へお札配りに歩いたときの日記「廻檀日並」の記述をもとに、高野聖が檀家の獲得や維持にいかに関心してきたか、お札や土産物をどのように運んだかなど、活動の詳細を教えてくださいことができました。

■史跡ウォーク小動コース 12月6日(土)



文化財学習センター事業の史跡ウォークに今年も講師として参加しました。今回のコースは小動地区です。古文書講座で小動村の明細帳を村絵図と比べながら読んだことから、その関連企画と位置づけました。村絵図の写しを参加者全員に配りながら、古い道を確認したり、合祀されてなくなった神社の跡を探したりするなど、参加者たちは意外に身近な所にある江戸時代の名残りに驚きの声をあげていました。

■インセンティブ予算認定書 12月26日(金)



平成21年度の予算編成にあたり、文書館費がインセンティブ予算の認定を受け、町長から認定書が手渡されました。この制度は、新たな歳入確保に取り組んだり、効率的な事業実施方法を創出したりした予算要求に対し増額予算措置をするものです。文書館費のうち町史刊行事業費において、平成20年度に刊行できなかった『調査報告書』を復活する際、編集作業を町民との協働で行うようにした点が評価されました。

■中世史講座 2月28日(土)



平成20年11月から21年2月にかけて、全4回で中世史講座を実施しました。テーマは昨年と同様、「梶原景時の史料を読む」で、吾妻鏡などにみられる梶原景時に関する史料を読みながら時代背景などを解説しました。昨年と大きく変わった点は、最終回に町内に残る景時関係の史跡を巡見したことです。南部文化福祉会館に集まり、3か所の史跡を訪ね、文化財学習センターでは館跡から発掘された遺物を見せてもらいました。

今後の事業予定

■開催中の展示のお知らせ

第6回企画展

「広報さむかわの60年」

町の広報は昭和24年(1949)6月に創刊。まもなく60周年の節目を迎えることになります。

これを記念してこれまでの紙面を振り返るとともに、現在の広報活動など、さまざまな角度から町の情報提供についてご紹介します。

会期 平成21年3月8日(日)～8月30日(日)

■平成21年度の講座・講演会

平成21年度は次の講座等を実施する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳しいことは「広報さむかわ」、文書館のホームページ、チラシなどをご覧ください。

- 古文書講座(全6回、5～10月)
- 中世史講座(全4回、11～2月)
- 町史講座(1回、時期・テーマ未定)
- 資料保存活用講演会(1回、時期・テーマ未定)

編集後記

寒川文書館だより第5号をお届けします。

第171回通常国会に「公文書等の管理に関する法律」が提出されました。公文書は未来の国民に対する説明責任を果たす国民の貴重な共有財産であり、これを管理・保存し、後世に伝えることは国の重要な責務であることから、省庁の文書管理について法的な規律を明確にし、国立公文書館の機能を充実させるという内容です。地方公共団体もこの趣旨に沿って必要な措置を講ずべきことが条文に明記されています。成立後は寒川町も対応にせまられます。その際に文書館の果たす役割はきわめて重要です。積極的に推進できるよう、研究を重ねてまいります。

ホームページもごらんください

ホームページでは文書館からのお知らせ、出版物のご案内のほか、さまざまなコンテンツをご提供しています。ぜひいちどアクセスしてみてください。

ホームページアドレスは下記のとおりです。

<http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

利用案内

■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分
寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩1分
※なるべく公共交通機関が自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第5号

平成21年3月31日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp